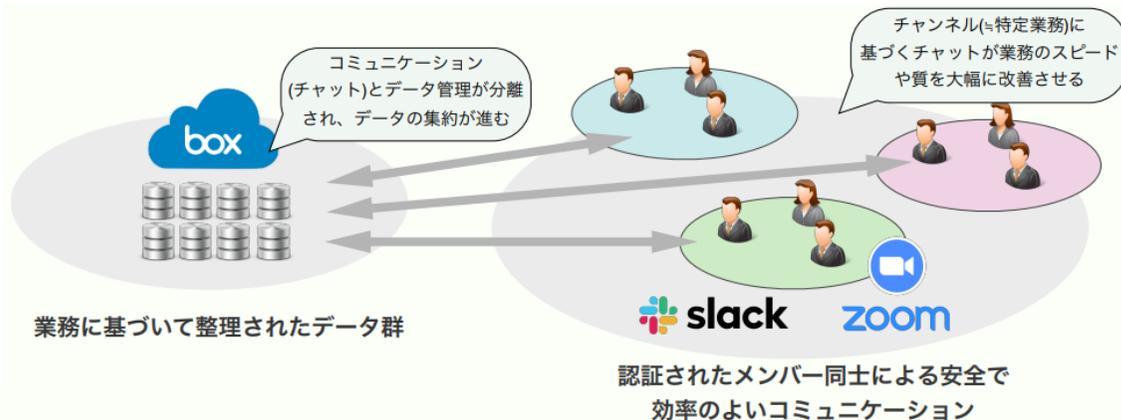


大学名 東京工業大学

第62号テーマ
「DX: デジタルトランスフォーメーション」

表題 サイバーセキュリティの確保と業務効率化を両立する大学運営体制の確立

サイバーセキュリティの脅威が増す中で、セキュリティの確保と業務改善の在り方を根本的に見直し、DX推進に取り組んでいます。
コミュニケーションとデータを分離し、データを中心とした業務フローを確立することで、より安全性の確保された環境で業務改善を目指しています。国立大学初のSlack/Boxの全学導入を行い、現在、約3500名の全教職員を対象として利用を開始しています。導入前後で、事務局同士の送信メール件数は、1か月で4万通以上減少しました。



セキュリティインシデントの際には、CERTが対応します。
セキュリティ機器の運用、セキュリティセミナーの実施、標的型メール対応訓練、大学独自のファイル共有システムの開発・運用など、専門家が幅広い業務を行っています。

東工大CERTについて

CERTは情報セキュリティ専門チームです。東工大における研究/教育/事務活動を促進させるため、安全な計算機環境が構築できるようなサポートする事がCERTの役割です。セキュリティ事業発生時における緊急対応を行うほか、セキュリティ情報の発信、学内の脆弱性調査など事前対応に重きを置いた情報セキュリティに関わる活動を行っています。

東工大CERTの体制



ファイルやフォルダを共有する時の注意点 (名前を工夫しよう！)

色んな所からたくさんコラボレーション (共有された人のBoxのトップページは凄いいこと)
※共有リンクのみに共有されているフォルダはここに

～POINT～
「誰から共有されたものフォルダ?」というのわかりやすいように、
コラボレーション (共有) するフォルダやファイル名は
「自分の部署名」
「相手の部署名」
「担当者名(実名)」
の3つを含める等の工夫をしてください。



Slack/Boxの活用支援には、25名の事務職員 (有志) がプロジェクトチームとして参画しています。
マニュアル作成などの利用支援、大学構成員の意見の吸い上げ、業務改善に向けた勉強会の開催などの活動を通じてデジタルマインドを持った職員が徐々に育成されつつあります。

参考URL

学術国際情報センター <https://www.gsic.titech.ac.jp/>
3500人も教職員が参加! 国立大初となる東工大のSlack活用事例
東工大のDXを推進した絶妙なツールの組み合わせとは? 業務効率化を学内の文化にする方法

<https://news.mynavi.jp/itsearch/article/bizapp/5613>
<https://news.mynavi.jp/kikaku/20211014-1991044/>